

〔科目名〕 芸術の創造		〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 教養科目
〔担当者〕 O JUN	〔オフィス・アワー〕 時間:9:00－16:00 場所:青森公立大学		〔授業の方法〕 対面式実技演習
〔科目の概要〕 青森公立大学の学生に木炭デッサンとフリードローイングの演習、古今東西の美術の講義を行う。 ＊基礎実技の実践として木炭による人物デッサンの実技演習を行う。それによって基礎デッサンの意味を理解するとともに描きにおける身体性の探求を目的とする。 何かを創造することは、人間に大きな喜びを与えてくれる。本科目では、実際に美術作品の制作を行い、芸術を生み出す過程について体験してもらう。 美術制作という活動を経験することは、芸術に対する新たな視点を生み、様々な表現に対する感性を培うこと。本授業を学生たちの豊かな精神性を涵養する契機としたい。			
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 デッサンを行うことで物を観察する目を養い、平面へのイメージの変換、多角的視点の理解を深めることは、他分野への応用や思考方法の深化、展開に新たな視座を獲得する手がかりとなる。			
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 中間目標としては、木炭や鉛筆など、画材に慣れ親しむ。また、モチーフを観察しそれを描写するための、基礎的な技術を訓練する。画面上の図像の位置や大きさなど構図とプロポーションの関係を認識する。 最終目標としては、必ずしも技術的な熟達のみが目的ではなく、中間目標がある程度達成されたうえでさらに各々の独自の創造性が見られるかどうかを評価する。			
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 1、コロナ禍における授業の実施という状況を鑑みて、本年度も授業に際しては講師、学生、関係者全体でコロナ新型コロナウイルスの感染予防に徹底的に努める。また授業の前後の各人の健康管理を確認し異常が認められた場合には直ちに大学に報告指示を仰ぐなど素早い対応を心掛ける。授業中は全員マスク着用、私語は慎む、質疑応答の差異には講師は特に学生と安全な距離を取り対応する等心掛ける。 2、デッサンの初心者である学生たちに、デッサンの意味を先ず講義の中で説いて聞かせる。そのうえで古今の画家や彫刻家、美術家のデッサンを資料や画像を見てもらいその鑑賞体験から実技へと移行する。道具や画材の説明やそれらの効果を講義を交えながらアシスタントが実演しそれを見る。 3、実技は形の取り方、構図、木炭や鉛筆の効果を実際に使用して確かめる。モデルのポーズ時間は見ることと描くことが連動するよう集中して制作を行う。 4、制作の終わりの片付け、道具の始末など各人がきちんと行うよう指導する。 5、一連のエクササイズを個々の能力、経験値に即して無理なく行われるよう講師、アシスタントは全員をよく見てその都度的確な指導を行うよう努める。 今年もデッサンを描く楽しみ、創造することの大きな喜びを体験してもらえようこちらも工夫します。			
〔教科書〕 特になし 講義の中で古今東西の美術作品を画像や動画を見せる。			
〔指定図書〕 世界素描大系全 4 巻 （※すでに大学が教材として用意していただいているのでそれを使用する）			

〔参考書〕 特になし	
〔前提科目〕 な し	
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業期間連日継続して行うデッサンの実技授業なので出席を特に重視する。 学生が授業の中で制作したクロッキーやデッサン、フリードローイングを講評して採点する。	
〔評価の基準及びスケール〕 デッサンにおける観察力、描写力、構成力、描くことを楽しむ工夫と努力の程度を評価基準とする。	
〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 美術を専門としない学生に鑑賞と制作の両面から当授業を通して美術、芸術の面白さ、深さを体験してほしい。 美術、芸術が人間の生活、社会に与える喜びや感動などポジティブな効果を制作を通して体験し理解してほしい。	
〔実務経歴〕 東京藝術大学美術学部油画の常勤として一昨年まで 12 年間勤務、学生の指導をする。2021 年 4 月からは多摩美術大学客員教授として油画学生の実技指導、講義を行っている。4 年前から東京大学教育学部、教養学部(今年度後期から)で実技演習講師として指導を行っている。本校(青森公立大学)において本授業を 8 年間にわたり行う(昨年はコロナのため中止)。その他、大学、中学高校、専門学校、美術館など美術教育機関でワークショップによる実技演習や講義講演を実施してきた。	
授業スケジュール	
第1回	テーマ(何を学ぶか): 人物デッサン 内 容: 9:00-10:30 デッサンについてのレクチャー及び、画材の使用についての説明。 教科書・指定図書
第2回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:10:45-12:00 人物クロッキー 教科書・指定図書
第3回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:13:00-14:30 モデル固定ポーズ 教科書・指定図書

第4回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:14:45-16:00 モデル固定ポーズ 教科書・指定図書
第5回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:9:00-10:30 人物クロッキー 教科書・指定図書
第6回	テーマ(何を学ぶか): 内 容 10:45-12:00 モデル固定ポーズ 教科書・指定図書
第7回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:13:00-14:30 ドローイングについてのレクチャー(デッサンとの違いとその制作の意味についてのレクチャー) 教科書・指定図書
第8回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:14:45-16:00 ドローイング制作 教科書・指定図書
第9回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:9:00-10:30 固定ポーズデッサン 教科書・指定図書
第 10 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:10:45-12:00 固定ポーズデッサン 教科書・指定図書
第 11 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:13:00-14:30 中間講評 教科書・指定図書
第 12 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:14:45-16:00 デッサン仕上げ 教科書・指定図書
第 13 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:9:00-10:30 デッサン講評 教科書・指定図書
第 14 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:10:45-12:00 デッサン講評 教科書・指定図書

第 15 回	テーマ(何を学ぶか): 内 容:これまでの総括 総括のポイント ・人物デッサンの実制作を通して次のことを学習できたか。 ・最初のレクチャーにおいて教材、参考資料とした画像や画集にある古典、近・現代のデッサンを鑑賞し、また講義を聴いて、デッサンがあらゆる芸術表現の基本的トレーニングでありその重要性を理解できたか。 ・実制作においては、対象(人物モデル)をよく観て、全体や部分の形状やプロポーション、バランス、人物の特徴等を描写できたか。 ・木炭、鉛筆、紙など描画材に慣れ親しむことができたか。観ることと描くこと相互の関係性を実制作のなかで体験的に理解できたか。 ・デッサンの出来不出来、技術的な巧拙を自他の評価とするのではなく、デッサン体験それ自体を楽しみ、それぞれの観方、個性がよく現れた活き活きとした表現となったか。 ・他人の描いた作品もよく鑑賞することができたか。一生懸命制作に集中したか。等 ・自分の絵、人の絵を見ること、自分で描くことを心から楽しめたか。 教科書・指定図書
試 験	授業最終日に制作物の全員講評を行う。 授業態度、理解度、体験の深度、制作物から総合的に判断し採点する。